

令和 6 年度 事業報告書

1 概況

2024 年度(令和 6 年度)の日本経済は、コロナ禍から完全に脱却した 2023 年度に続き、インバウンド需要と個人消費の改善を背景にサービス産業が景気をけん引、緩やかではあるが期間としては戦後 4 番目の長さとなる景気回復を示した。この回復局面の長期化の中にあって、2024 年 3 月には日銀によるマイナス金利政策が解除され、日経平均株価は史上最高値を更新するなど、デフレ経済からインフレ経済への急速な転換が確認された。しかし一方では、諸外国の政権移行や政策変更といった国際情勢の影響により為替相場の乱高下や物価高がもたらされ、また労働人口の減少による慢性的な人手不足の問題も深刻化しており、景気の底堅い回復とは裏腹に、依然として経済の先行きは不透明感を拭えない状況が続いている。上記の経済環境にあって、当財団においてもその影響、特に各種仕入価格や人件費および借入利息など相応のコスト負担増は不可避であり、さらには大口の健診先との取引停止もあり、厳しい事業運営を迫られた1年であった。

このような状況の中、当財団は、移転グランドオープンから 1 年を迎えた「とちぎ健診プラザ」が年間を通して想定を超える業績を実現、投資初年度負担の影響で 2023 年度比では減益になったものの、受診者数を大幅に伸ばしたことで事業収入を押し上げ、財団全体で増収を達成することができた(事業収入が 2023 年度比で約 1 億 6 千万円増の 106 億 7 千万円を確保)。

上記の取り組みと並行して、今後予定されている健診施設の新規開設案件「立川健診プラザ」「渋谷健診プラザ」を始め「伊勢崎健診プラザ増改築」といった各重要プロジェクトについて、プロジェクトチームを立ち上げ、計画遂行に着手した。

医療職・一般職の人員確保の問題やインフレ基調下でのコスト上昇をいかに抑制するかといった継続課題はあるものの、上記の業績および活動実績より、総じて 2024 年度は堅調かつ次年度以降の飛躍に繋がる事業年度となった。

2 健康診断事業・診療事業

【 新宿健診プラザ 】

新宿健診プラザにおいては、ネットワーク健診において取引減少となった。これをカバーするため、営業活動を始め接遇サービス強化や業務効率化に取り組み施設健診の底上げを図った結果、単価の高い施設健診受診者数が伸びたことにより施設売上の増収を確保することができた。

【 伊勢崎健診プラザ 】

伊勢崎健診プラザは、2023 年度に達成した 12 か月連続単月黒字の継続を目指し、更なる業績基盤の盤石化を目的として、各部門間の連携強化と各種業務・体制の見直しを行った。結果として本年度において

も 12 か月連続単月黒字の定着化と設定予算とを達成することができた。

【 とちぎ健診プラザ 】

とちぎ健診プラザは、2024 年 1 月に移転グランドオープンを果たし、本年度がその新施設での実質初年度となった。本年度では、新施設の優位性を生かした業容拡大に注力、地域一番の健診施設を目指して施設運営に取り組むとともに、各種媒体を利用した広告宣伝も積極的に実施、新施設の PR に努めた。結果、想定を超える業績を実現し、続く 2025 年度に入っても初年度と同様に好調なスタートを切ることができた。

【 山形健康管理センター 】

山形健康管理センターは、本年度においても健診受診の時期および時間帯の平準化を積極的に推し進める施策に注力、結果、施設受診者数は前年度比＋6％超の増加となり、巡回健診受診者数を合わせた受診者数でも前年度比＋4％増を達成することができた。

【 各拠点の診療事業 】

健診・人間ドック実施後の二次検査の実施、および外部専門医療機関との連携等に注力し、健診後のフォロー体制の充実化に努めた。

以上